

五七 桂クラブ県下野球大会優勝の報道

昭和三年（一九二六）十一月

覇業成る桂

本社の県下野球大会に優勝した桂倶楽部のナインは、奥氏（⁴⁴）に引卒されて同二十一日夕六時の汽車で意気揚々と退甲した

（昭和三年十一月二三日「山梨日日新聞」）

【解説】 県下野球大会に優勝した谷村町の桂倶楽部の記事である。奥隆行編の『都留野球史回顧録』によると、「桂チームが産声をあげてここに一五年、ついに大優勝旗を笹子を越えて郡内谷村の地にうち立てることができた。この感激は生涯忘れることができない。」と記されている。

五九 桂クラブ県下野球大会優勝の報道

昭和一〇年（一九二五）六月

省後援第二十七回県下野球大会

桂 六 年 振りの覇業

4―3 蕪葉・無敵への途上、惜しくも挫折す

球児四日間乱舞の清算

本社並に甲府野球協会後援・県体育協会主催の第二十七回県下野球

都留市史

資料編 近現代

大会第四日は昨二日午前九時から薫風そよぐ県営球場に於て行われたこの日准決勝に臨む身延・蕪葉・桂・高工の四覇はいづれも眉宇に必勝の意気を見せて熱球猛打の交錯裡に、蕪葉先づ身延を退け前回の覇者たるの貫録を示し、続く高工・桂戦は二回高工一点を先取して桂を追い詰めれば、桂も五回二点を奪って攻守位置を変え戦興弥が上にも高潮、准決勝戦に相応しい熱戦を展開したかくて本年春季の覇者を決すべき決勝戦は午後二時半から蕪葉・桂の両雄によって戦われた

（中 略）
5A―1 高工奮闘空し
遠来の桂決勝戦へ

准決勝戦高工対桂戦は引続き午前十一時二十七分から梅本（球）有野・野田（塁）三氏の審判にて高工の先攻で行われた

★一回 高工村山遊撃右を抜いたが塚本の三塁飛球に併殺、中田中前安打するも投手牽制に刺さる ▲桂一死後、横山の安打に走者一・二塁となったが後続無為（両軍0）

★二回 高工三井一匍失に二進、堀米三越安打、天田遊三間安打に三井生還、後援なし、 ▲桂志村の安打あるのみ（高工1・桂0）

★三回 両軍走者を出したが入らず（両軍0）

★四回 高工堀米安打したが入らず ▲桂石井の安打のみ（両軍0）

★五回 高工三者三振 ▲桂小林左飛失、安田一匍失に続き捕手の返球悪く走者進塁、横山の中進安打に小林・安田生還、横山二塁を盗んで刺さる、高田二飛（高0・桂2）

★六回 高工塚本遊三間安打したが中田の投匍に封殺、三井の二匍に中田封殺、堀米一邪飛 ▲桂灘谷遊匍悪投に生きたが石井の三塁直球に併殺、土屋四球、志村中飛（両軍0）

★七回 両軍無為（両軍0）

★八回 高工三者凡退 ▲桂横山の左直球を野手前進し過ぎて越され本塁打となる、高田・灘谷・石井と安打を続け高田還る、土屋の三匍に灘谷を三塁に封殺したが志村の安打に石井も還る、小林二飛、捕失に走者二・三塁となったが安田三振（高0・桂3）

★九回 高工中田三匍、三井三振、堀米二匍に空しく5A―1で桂勝ち、決勝戦に臨む事となった（閉戦一時二十五分）。

高工 0 1 0 0 0 0 0 0 0 1
桂 0 0 0 0 2 0 0 3 5A

工 山 本田 井米 田尾 部 原
高 村 塚 中三 堀 天 池 阿 篠
6 5 1 2 8 4 7 3 9

桂 田 山 田 谷 井 屋 村 林
安 戸 横 高 灘 石 土 志 小
8 4 5 3 1 7 2 9 6

ネット裏 桂は灘谷を、高工は中田を、共に金看板の投手を起用して対峙したが前半灘谷は対鶴城戦に示した如き球威を見せず、高工のウィークな打者にすら初めから打たれ二回に一点を得られてからは殊更に乱れ勝ちなピッチングを続けた、この窮状も幸いにして後半高工の陣□に自ら生じた守備の不確実の暴露と地力の打

力が□頭して勝つには勝ったが、期待が大きかっただけに此の試合に於ける桂の戦ひ振りはいさゝか物足りなかった、高工は投手中田・捕手三井が中心のチームであるがバッテリーの健闘にナインが皆な比較的緊張してさしたる破綻を示さなかったのは偉とすべきであらう（辰生）

桂・堂々と優勝す

4—3 葦葉血涙を呑む

国中の雄、前回の勝者葦葉と郡内の強豪桂との決勝戦は午後二時四十分から小川（球）・長島・三井（塁）三氏審判の下に桂先攻で行われた

一回 桂安田・戸田と安打を続けたが後続なし、▲葦葉二死後、本村左中間の安打は本塁打となり生還、芦沢四球、永井・長田遊撃に安打し満塁となったが工藤三振（桂0・葦1）

★二回 桂石井四球を選び二盗、土屋の中前安打に走者二・三塁となったが後援なし、▲葦葉二走者を出したが入らず（両軍0）

★三回 両軍三者凡退

★四回 桂一死後石井左越三塁打したが土屋スクイズバンドを失敗した後三振、志村三振、▲葦葉工藤四球、中西三匍失、中込の三匍に走者一・二塁に進塁したが末木スクイズを失敗の後三振・吉沢一匍（両軍0）

★五回 両軍無為

★六回 桂横山三飛失、高田二匍失、灘谷の三匍は高田を二塁に封殺したが灘谷二盗の時野手球を落しこの間に横山還る、続く石井

左越本塁打して灘谷と共に還る、土屋・志村三振、▲葦葉三者無為（桂3・葦0）

★七回 両軍走者を出したが入らず

★八回 桂高田・灘谷安打に出て二死後二・三塁を連盗し土屋の中前安打に生還、土屋は中堅手が後逸する間に三進、志村四球、小林三振、▲葦葉二死後中西四球を選んだが中込三匍（桂1・葦0）

★九回 桂安田四球に出て戸田の犠打に二進したが後続なし、▲葦葉最後の攻撃に入り末木左前安打すれば野手後逸し二進、吉沢の遊匍に三進木村四球後二盗、芦沢一・二塁間を抜き末木・木村生還、自らは返球悪き間に二進、急迫したが永井・長田三振して挽回成らず

4—3 の接戦の末桂倶楽部優勝す（閉戦四時五十分）

桂 0 0 0 0 0 3 0 1 0 4
葦葉 1 0 0 0 0 0 0 0 2 3

桂	田	山	田	谷	井	屋	村	林
安	戸	横	高	灘	石	土	志	小
8	4	5	3	1	7	2	9	6
葦	木	沢	村	沢	井	田	藤	西
2	末	吉	木	芦	永	長	工	中
5	3	1	6	9	7	8	4	

（昭和一〇年六月三日「山梨日日新聞」）

【解説】 県下野球大会に桂倶楽部が六年ぶりに優勝した新聞記事である。